ミネソタから新年のご挨拶

―ミネアポリスで感じる食と人と文化―

Cargill, Incorporated.
石田　悠貴

1．新年のご挨拶と自己紹介

皆様、新年明けましておめでとうございます。アメリカ中西部ミネソタ州ミネアポリスより、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日本で総合商社に勤務したのち、2022 年夏にミネソタ州にある Cargill 本社へ転職し、およそ 3 年半が経過しました。Cargill 入社に伴いミネアポリスに居住しておりますが、仕事を通じて北米の穀物サプライチェーンのダイナミズムを体感する一方、一生活者としては、冬の厳しさと自然の豊かさが同居するこの土地の魅力を少しずつ知り始めているところです。

ミネソタ移住前はシカゴに居住していたため、同じ中西部として一括りに捉えていましたが、生活リズムや街の雰囲気はシカゴとは大きく異なり、「落ち着いた北国の都市」で暮らしていることを日々実感しています。日本から見ると、ミネソタ州・ミネアポリスは、ニューヨークやロサンゼルス、シカゴに比べればまだなじみの薄い地域かもしれません。本稿では、当地で暮らす日本人としての目線から、

- ミネソタ州はどこにあり、どのような特徴を持った州なのか
- ミネソタで暮らす人々の気質や文化、コミュニティの雰囲気はどのようなものか
- その中で、筆者がどのように人間関係を築き、生活や仕事を送っているのか

といった点を中心に、ご紹介できればと存じます。

２．ミネソタ州の位置とプロフィール

ミネソタ州はアメリカ合衆国のほぼ中央、カナダとの国境に接する北の州で、西にノースダコタ・サウスダコタ、南にアイオワ、東にウィスコンシン州が隣接しています。あまり知られていませんが、羽田からミネアポリスまでは Delta 航空の直行便が就航しており、時差は日本より 15 時間遅れです（サマータイム期間中は 14 時間）。

州都はセントポール、最大都市はミネアポリスで、この二つの都市は「Twin Cities」と呼ばれ、一体的な都市圏を形成しています。私の生活圏もこの Twin Cities にあり、住宅街、オフィス、高速道路、郊外の農地がほどよく混在した、落ち着いた雰囲気の地域です。

ミネアポリスダウンタウンのオフィス街

ミネソタ州は、教育水準や医療水準の高さ、比較的安定した治安、豊かな自然環境などを背景に、全米の「住みやすい州」ランキングで常に上位に入ると言われています。日本では「とにかく寒い州」というイメージが先行しがちですが、現地で暮らしてみると、子育て世代やシニア層にとっても住みやすい、バランスの取れた地域だと感じます。

3.「農業の州」としてのミネソタ

ミネソタ州は、アメリカでも有数の穀倉地帯の一角を担っています。州内を車で走ると、トウモロコシや大豆、小麦の畑が地平線の向こうまで広がり、収穫期にはコンバインが縦横無尽に走り回る光景があちこちで見られます。日本の圃場ではなかなか目にすることのないスケール感で、「豊作の年も不作の年も、こうした土地に支えられて日本の畜産・養鶏が成り立っているのだ」と強く実感させられます。

Cargill キャンパス内の野生のターキー

Cargillの本社がミネアポリス郊外に位置していることもあり、州内には穀物エレベーターやサイロ、飼料工場、油脂工場などが多数集積しています。まさに、「農場から港まで」のサプライチェーンがコンパクトに凝縮されている地域と言えます。

近年は、飼料・畜産の分野においても、温室効果ガス排出量の「見える化」や、持続可能なサプライチェーンの構築がこれまで以上に求められるようになってきました。私自身もバイオ燃料に関するプロジェクトに携わる中で、一連のサプライチェーン全体で、環境負荷と経済性をどう両立させるかという難しさを目の当たりにしています。北米で進みつつある取り組みが、将来的に日本の畜産・飼料業界にどのような形で波及していくのか、引き続き注視していきたいテーマです。

４．イノベーションとビジネス環境

「農業の州」というイメージが強いミネソタですが、実は医療機器、ヘルスケア、IT、先端製造業などの分野でも全米をリードしています。州南部のロチェスター市には世界的な医療機関であるメイヨー・クリニックが位置し、その周辺には医療機器メーカーやバイオ関連企業が集積したクラスターが形成されています。Twin Cities 周辺も、食品・農業関連に加えて、ヘルスケア企業、ソフトウェア企業、3Mをはじめとする製造業など、多様な産業がバランスよく集まっており、ビジネス・生活双方のインフラが整った地域です。

日本企業も、自動車・食品・商社・機械メーカーなど多くが進出しており、日系企業向けのコミュニティや日本語補習校も整っています。日本人同士の交流の場もあり、「北国での海外生活」というハードルを下げてくれる心強い存在となっています。

５．厳しい冬と美しい四季

ミネソタの冬の厳しさは、噂に違わず手強いものがあります。12 月から 2 月にかけては最高気温が氷点下という日も多く、「寒い」という言葉では表現しきれない世界が広がっています。一方で、その分だけ四季の変化がはっきりしており春の訪れは格別です。

紅葉シーズンの Cargill 本社のエントランス

雪解けとともに木々が芽吹き始め、4 月頃からは公園の芝生が一気に緑色を取り戻します。夏は日照時間が長く、夜 9 時近くまで明るい日も多いため、仕事帰りに湖畔を散歩したり、週末にキャンプやハイキングに出かけたりと、アウトドアを楽しむ人々で賑わいます。秋には紅葉が街路樹や住宅街を彩り、ハロウィンから感謝祭、クリスマスへと続くイベントシーズンが、長い冬の前のささやかなご褒美のように感じられます。

6．ミネソタの文化と「Minnesota Nice」

ミネソタの人々の気質を語るうえで、必ずと言ってよいほど登場する言葉が「Minnesota Nice」です。直訳すると「ミネソタ流の優しさ」ですが、実際にはも

う少し複雑な意味合いを含んでいます。日常生活の中で感じるミネソタ・ナイスは、とにかく「表面上はとても親切で穏やか」というものです。初対面でもにこやかに話しかけてくれますし、エレベーターやスーパーのレジでも、ちょっとした世間話が自然と始まります。一方で、そのフレンドリーさがそのまま「深い友人関係」に直結するかというと、必ずしもそうではありません。

実際に暮らしてみて感じるのは、「本当の意味でコミュニティに入るには、自分から一歩踏み込んでいく努力が必要」ということです。誘われるのを待つのではなく、自分からイベントに顔を出したり、興味のある活動に参加したりしていく中で、少しずつ距離が縮まっていきます。私の場合は、車がそのきっかけになりました。週末のカーイベントに参加すると、年齢もバックグラウンドもバラバラな人たちが「車好き」という共通点だけであっという間に打ち解けていきます。

職場の環境も日本とは異なり、Cargill本社に勤務する日本人は、私を含めても現在二人しかおらず、マイノリティとして働く中で、自分のバックグラウンドや考えをきちんと言葉にして伝えることの大切さを、改めて痛感しています。

ミネソタならではの文化として印象的なのが、「さよならを言ってから本当に帰るまでが長い」ことです。ホームパーティーや集まりの場で「そろそろ失礼します」と挨拶を交わしてから、玄関先や駐車場までの道すがら、さらにスモールトークが続きます。結果として、実際に家を出るまでに30分以上かかることも珍しくありません。この「長いお見送り」の時間を通じて、相手の近況を聞いたり、自分の話をしたりする中で、少しずつ信頼関係が深まっていくのだと感じるようになりました。おかげで、私自身のスモールトークのスキルもだいぶ鍛えられたように思います。

このように、ミネソタの人々は一見とても穏やかで控えめですが、その奥には地に足のついたコミュニティ意識と、時間をかけて人間関係を築いていこうとする姿勢があります。北国ならではの厳しい自然環境の中で、そうしたつながりが暮らしを支えてきたのかもしれません。

７．ミネソタの食文化

北国ミネソタの魅力は自然や産業だけでなく、素朴でどこか懐かしい「食」にも表れています。日本人の感覚からすると少々カロリーは高めですが、寒い冬を元気に乗り切るためのごほうびのような料理が多い印象です。

チーズカーズ：揚げたて一口チーズ

ミネソタの名物としてまず挙げられるのが「チーズカーズ（Cheese Curds）」です。チーズを作る工程でできる一口大の固まりを油でカラッと揚げたもので、外側はサクサク、中からは熱々のチーズが伸びてきます。州内のレストランやバーでは定番の前菜メニューになっており、ケチャップやランチソースを付けて気軽につまみます。

毎年夏に開かれる「ミネソタ州フェア」では、揚げたてのチーズカーズを求める行列ができており、地元の人にとっては「フェアに来たらまずこれ」という存

Cheese curds と Juicy Lucy

在のようです。私も初めて食べたときは、そのシンプルさとクセになる塩気に驚かされ、ついもう一皿頼みたくなりました。

Juicy Lucy：中からチーズがあふれるハンバーガー

もう一つの名物が、ミネアポリス発祥とされる「Juicy Lucy（ジュ―シー・ルーシー）」と呼ばれるハンバーガーです。通常のチーズバーガーはパティの上にチーズを乗せますが、Juicy Lucyはパティの中にチーズを包み込んで焼くのが特徴です。かぶりつくと、中心から溶けたチーズがあふれ出し、肉汁とチーズが一体となった非常に濃厚な味わいが楽しめます。

８．最後に―北国から日本の食卓へ

地理的には日本から遠く離れたミネソタ州ですが、飼料・穀物・バイオ燃料といった分野を通じて、日本の畜産や食卓と深く結びついている地域でもあります。
ウクライナ情勢や気候変動などにより、世界の穀物市場は依然として不確実性の高い状況が続いていますが、そのようなときこそ、産地との信頼関係と安定供給の仕組みづくりが重要になります。

Cargillの一員として、また日本出身のビジネスパーソンとして、私はこれからもミネソタ州を拠点に、「北米の生産現場」と「日本の飼料・畜産・食品産業」をつなぐ橋渡し役として貢献していきたいと考えています。本稿が、皆様にとってミネソタ州・ミネアポリスを少し身近に感じていただくきっかけとなれば幸いです。

末筆ながら、飼料輸出入協議会および会員各社の皆様の一層のご発展とご健勝をお祈り申し上げるとともに、本稿をもちまして新年のご挨拶とさせていただきます。